2026 年度第 1 回教育委員会　議事録

開催：2026 年 10 月 21 日（水）12:00-13:00
参加者：三上，長儀，福本，寺脇，船木，鬼頭，服部，岩野

- **教育委員会の透明性について**

教育委員会の議事録を，今後ホームページにアップロードすることとなった。これは，教育委員会の透明性を担保しすることを目的とする。

- **認定行動療法士の社内推薦**

認定行動療法士の社内推薦に関することが議論された。認定行動療法士を含む資格取得を希望する者は，教育委員会に申し出た後に，教育委員会が社内推薦をするかどうかを審査することとなった。そのために，教育委員会内において推薦基準案を作成することとなった。また，資格手当については，今後社内規定の文言を「教育委員会の推薦を経て」という内容に変更する予定となった。社内推薦がされた場合は，資格申請のためのレポートを業務時間内に作成することが可能となり、資格取得にかかる費用についても補助を受けることが提案された。

- **教育制度の大枠**

初期研修期間の 2 年間は社内の教育プログラムに集中し、その後 2 年間は上位資格の取得に取り組む計画が共有された。また，資格取得後（5 年目以降）に SV 養成教育に参加することが可能となる大枠が提案された。

- **1 年目に対するメンターからの情報とメンター制度**

各メンターからの情報が共有された。1 年目各スタッフの現状および特徴について，教育委員会内で共有が行われ，個別対応について協議された。来年 3 月頃に再度聞き取りを行うことを検討している。

また，現状のメンターは週 1 回の面談から 1 か月に 1 回などの，1 年目との面談頻度に個人差が大きいことが報告された。メンターは係長級への昇進における準備経験として位置付けることが共有された。

- **スーパーバイズの効果についての資料（資料参照）**

1 年目のバイジーが SV 後に記録している情報からテキスト分析が行われ，9 月以降の変化についての評価が共有された。参加者たちはロールプレイの実践や言語処理の改善に取り組んでおり、各バイジーの特徴と課題について共有された。

新人職員 SV 記録集計結果：学習効果と改善ポイント

今回：6 名・64 件（2026 年 9〜10 月）　｜　前回：7 名・77 件（前回報告書）

【要約】今回も RP・振り返り SV が面接行動を試す学習機会となっています。特に、目標・介入方針を「本人が実行できる行動や HW」に落とし込む過程、問いかけの焦点化、説明と同意の取り方が具体的な課題として表れました。実演・役割交代に加え、実際の動画を用いた FB が記録され、自己理解と再練習を結びつける手段が広がっている。

分析方法：今回 6 名の SV 記録 64 件について頻出語・反復表現を確認し分類。記録単位で複数コードを付与。前回報告書（7 名・77 件）の記述と比較した。

1. 共通して見られた学習テーマ

テーマ	件数	記録に表れた内容	今後への活用
目標設定・介入方針・HW の行動化	28	意向と提案の調整、強化子・標的行動・ＨＷの水準や実施条件を具体化する難しさ。	同一事例で「ニーズ→行動目標→HW→振り返り」を通して練習。
具体的 FB・実演・動画による自己理解	27	役割交代、Cl 役の体感、撮影 RP の動画 FB から面接行動・強み・癖を確認。	FB で観察事実と意図の差を整理し、短く再 RP する。
質問・情報収集の焦点化	24	初回の質問順、情報の取捨選択、広げ方、仮説への偏りや言い回しの検討。	「何を・なぜ・いつ聞くか」を 1 問ずつ言語化。
心理教育・見立て共有・同意形成	19	説明の前置き、理解確認、図式化、介入提案を Cl とすり合わせる実践。	「導入→同意→説明→理解確認」をセットで練習。
共感・非言語・治療関係	18	メモ・姿勢・所作、沈黙や感情への反応、Cl の体験に沿った共感。	Cl 役の感想と非言語の具体的 FB を組み合わせる。
面接の構造化・時間配分	18	初回の全体像、話題転換、50 分の着地点と情報収集の優先順位。	短い場面 RP に加え、初回の通し RP を設定。
仮説・ケースフォーミュレーション	12	ABC 分析、行動の機能、競合する仮説、モデル選択と共有の方法。	複数仮説を比較し、質問・介入の根拠を確認。

2. SV を受けて「良かった点」と、運用上の注意

良かった点として繰り返し出た内容	困りごと・改善余地として見える内容
・実演・役割交代・具体的 FB で、質問や説明を Cl の立場から理解できている。 ・動画 FB により、本人の意図と実際に伝わる行動の差を確認できている。	・提案と本人の意向、共感と進行、技法の目的と手続きの両立に迷いが残る。 ・通し RP、言い回しの実演、目標・ＨＷの調整を求める記録がある。

3. 前回報告書との比較：新しく見えた点・変化

比較観点	今回の分析から読み取れる変化
継続：RP・質問・見立て	前回は RP、質問・共感的応答、アセスメント、CBT モデル共有が中心。今回も継続し、面接全体の進め方や「質問の意図」を検討する記述に接続。
具体化：目標・介入・HW	前回の「目標設定・アジェンダ」「心理教育」から、今回は本人の希望と提案の調整、強化子・標的行動の選定、ＨＷの水準設定・FB へ具体化。
新たな実践：動画 FB	前回はビデオ FB（IPR）の活用拡大を今後の予定として記載。今回、撮影 RP や試験動画で面接全体・発話・所作を振り返った実施例が確認された。
今回目立たない事項	前回にあった「上長の時間確保」の訴えは今回は確認されない。またパニック・希死念慮等の高負荷場面の明示的記述は少ない。解消・不要を意味しない。
学習ニーズ	今回は「Cl 役で実演を受ける」「自然な質問の言い回し」「同意・説明」「目標・ＨＷの設定基準」「通し RP」など次回の練習方法まで具体化。

4. 今後について

① **通し RP と場面 RP の併用：**初回面接から目標設定・提案まで通して練習し、局所場面は「前置き→同意→説明」等で再試行。

② **動画・役割交代 FB の定着：**本人の意図→Cl 役の体感→動画で観察できる行動→次の一手、の順に短く確認。

③ **目標／HW の共通教材：**意向とのすり合わせ、強化子・標的行動、HW の難度、実施後の感想確認を困難場面集に追加。